

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
福岡県宗像市離島 航路確保維持協議会	宗像市	地島～神湊	コミュニティバスの運行時刻を渡船の運航時刻に合わせることで、渡船利用者の利便性を図った。	A	A	観光事業との連携を深め乗船客の増加を目指し、併せて経費削減を行うことで事業収支の改善を図る。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
福岡県宗像市離島 航路確保維持協議会	宗像市	大島～神湊～地島	コミュニティバスの運行時刻を渡船の運航時刻に合わせることで、渡船利用者の利便性を図った。	A	A	世界遺産国内推薦の決定により増加している来島者への対応について関係機関と検討していく。また、観光事業との連携を深め乗船客の増加を目指し、併せて経費削減を行うことで事業収支の改善を図る。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
福岡県新宮町離島 確保維持協議会	新宮町	相島～新宮	平成26年10月から新船が就航しており、船舶のデザイン性をもたせ、島独自のイベント等PRと併せて利用客の増を図った。	A	A	引き続き、島でのイベント等PRの際は、サポートに力を入れ、利用客の増に繋げる。 運航について、悪天候や冬場の玄界灘の運航は想像以上に難しく、船体形状が双胴船であるため、航海中の腹打ちの振動や音で利用者から苦情があっている。その改良のため設計等について調査を行う努力をする。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
福岡県福岡市離島 航路確保維持協議 会	福岡県福岡市	玄界島～博多	船舶故障等による欠航がないよ う、引き続き船員による日常点 検を強化した。	A	B	島民以外の利用者にも、渡船の 更なる利用を促すため、情報発 信等により利用者の増加に努め ていく。	少子高齢化の進行で運航収益 の増収は見込みにくいと考えら れることから、収支率に着目して 事業の実績が計画を上回るよう に取り組んでいただきたい。	
福岡県福岡市離島 航路確保維持協議 会	福岡県福岡市	小呂島～姪浜	島民以外の利用者にも渡船の 利用を促すため情報発信を行っ ていく。	A	B	島民以外の利用者にも、渡船の 更なる利用を促すため、情報発 信等により利用者の増加に努め ていく。	少子高齢化の進行で運航収益 の増収は見込みにくいと考えら れることから、収支率に着目して 事業の実績が計画を上回るよう に取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
福岡県糸島市離島 航路確保維持協議 会	糸島市	姫島～岐志(本土)間 を運航	平成25年度に策定した糸島市 航路改善計画に基づき、利用者 の増進及び利便性向上の検討 を行っている。	A	A	平成25年度に実施した利用 者アンケート調査において、 欠航に強い船の建造や姫島 の特産品開発、島内の食事 処の設置を望む声は多い。ま た、路線バスとの結節改善や 本船の回数券の導入など、 利便性向上が求められてい る。平成27年度にバスのダ イヤ改正を行い渡船時刻と の結節改善を行った。回数券 の導入は検討中である。 今後は、島内観光資源の調 査を実施し島民との協議を重 ねて魅力ある島づくりに取り 組み、利用者の増進を図る。	少子高齢化の進行で運航収益 の増収は見込みにくいと考えら れることから、収支率に着目して 事業の実績が計画を上回るよう に取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
唐津市離島航路確保維持協議会	(有)郵正丸 馬渡島～呼子航路	馬渡島～名護屋・呼子(本土)間を運航	本航路は、離島住民にとっては島外への通勤、通学、通院、生活物資の購入等日々の生活の安定の確保という観点から、確実に計画運航回数の達成を目標とし、併せて観光客などの利便性を確保した。	A	A	引き続き安定的な航路運営に努め、計画運航回数の実施、コスト削減を図る。今後もイベント事業と連携して、観光客等の利用者増加を図る。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
唐津市離島航路確保維持協議会	(有)加唐島汽船 加唐島～呼子航路	加唐島～呼子(本土)間を運航	本航路は、離島住民にとっては島外への通勤、通学、通院、生活物資の購入等日々の生活の安定の確保という観点から、確実に計画運航回数の達成を目標とし、併せて観光客などの利便性を確保した。	A	A	島内人口が減少していることから、島民利用の増加は望めないものの、各種イベント事業との連携により、利用者の確保を図る。引き続きコスト削減を図りつつ、計画運航回数の確保を図る。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
唐津市離島航路確保維持協議会	川口汽船(有) 小川島～呼子航路	小川島～呼子(本土)間を運航	本航路は、離島住民にとっては島外への通勤、通学、通院、生活物資の購入等日々の生活の安定の確保という観点から、確実に計画運航回数の達成を目標とし、併せて観光客などの利便性を確保した。	A	A	確実な運航回数を確保するとともに、本航路における共通予備船の使用割合を増やし、コストの削減を図る。共通予備船の貸し出しなど、利用拡大に努め、収益の増加を図る。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
唐津市離島航路確保維持協議会	唐津汽船(株) 神集島～湊航路	神集島～湊(本土)間を運航	本航路は、離島住民にとっては島外への通勤、通学、通院、生活物資の購入等日々の生活の安定の確保という観点から、確実に計画運航回数の達成を目標とし、併せて観光客などの利便性を確保した。	A	A	新船導入に伴い、引き続き安定的な航路運営に努め、計画運航回数の実施を図るとともに、燃油等のコスト削減に努める。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業（離島航路運営費等補助事業）

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	九州郵船(株)	博多～比田勝	島内の情報を収集。旅客、車両の増加に努めた。	A	A	旅客、車両共、過疎化、水産業の不振等で多くの利用増は見込めないが、旅客グループ、定期トラックの利用増を引続き働きかけていく。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	崎戸商船(株)	友住～佐世保	分科会において、住民の利用状況及びニーズの把握ができた。	A	B	「友住～佐世保航路分科会」において、離島航路改善計画を策定した。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	九州商船(株)	佐世保～上五島	他社の参入により「佐世保～上五島航路分科会」でまとめられた航路改善計画を反映させることはできていないが、利用者のニーズに応えるためアンケートを実施したり、安全運航のために日頃から船舶の点検等を行うなどして航路の確保維持に努めた。	A	A	他社の参入により長崎県離島航路対策協議会「佐世保～上五島航路分科会」でまとめられた航路改善計画の実現ができていないため、航路の状況を勘案しつつ少しでも早い段階で航路の改善が実施できるよう努めたい。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	野母商船(株)	福江～博多	利用者へ船内でアンケート調査を実施しニーズに応えられるように努力している。日頃から船舶等の点検・整備を確実に行之、安心・安全な運航サービスが維持されるように努めている。	A	A	①経費面では、博多～宇久港間の下り便に於いて減速運航を継続して行うことで燃料費削減に努め、その他経費に於いても削減に努める。 ②収入面では、積極的な営業活動を行い増収による欠損額の抑制に努める。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	五島旅客船(株)	郷ノ首～福江	・本年度は、使用船舶の老朽化により、船舶修繕費が多額になると予想されたが、日常メンテナンスも計画的に実施すると共に、ドック時に於いて検査工事等を造船所に全て任せることなく、船員自ら整備を行うことにより削減に努めた。 ・雇用船員の定年退職等に伴い、若年船員の採用に努めた。	A	B	地域公共交通活性化再生協議会並びに長崎県離島航路対策協議会に設置されている地域分科会等を通じて、本土～離島間及び島内交通機関との接続を密にして地元住民の足としてより良い運航形態を目指すことにより、公共交通機関としてのサービス維持に努めたい。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	佐世保市(宇久)	神浦～柳	引き続き観光協会と連携し、観光客の誘致を行い、観光客の受け入れ先として民泊の強化を行った。	A	B	今後とも島内への移住定住促進、交流人口増加へ向けた取り組みを行う。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	津吉商船(株)	津吉～相浦～佐世保	・平戸南部地区の過疎化に伴う人口の自然減を補うため、イギリスからの「将軍ツアー」と、平戸商工会議所主導による南部地区町おこしの一環として「南部地区活性化委員会」にも積極的に参加し観光誘致に努め、各種イベント等についても、当社も出来る限りPRを行い、平戸島外からの入込み客を増やすことにより運賃増収に努めた。	A	A	・事業者単独での航路維持は非常に困難であり、公的支援が必要である。 ・県・市等関係機関に働きかけ佐世保地区へのPR化を図り、広域観光ルートの構築に取り組む。 ・平戸商工会議所主導による「南部地区活性化委員会」にも積極的に参加し観光誘致に努め、各種イベントについても、出来る限りPRを行い、運賃の増収に努める。 ・船舶修繕費については、船員で整備修繕を行い、経費削減に努める。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	西海沿岸商船(株)	佐世保～神浦	長崎市及び島民との協議を行い、観光客の受け入れ体制、ダイヤについて協議を行っている。	A	B	西海市及び長崎市(池島)と連携し航路利用客の増加に努める。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	平戸市	平戸～大島	燃料費の安価な購入のため毎月単価見積入札を実施した。離島住民割引を実施し、島民の利便確保、負担軽減を図った。	A	A	燃料単価は昨年度に比較して下落しているが、今後も主機回転数の抑制や毎月の単価見積入札を継続していく。また、ドック等において、塗装、小修理等可能な限り船員で行い経費節減に努める。また、安定的な運航を図るため、船員の確保に努めていきたい。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	対馬市	樽ヶ浜～仁位 ↓ 仁位～長板浦	住民説明会を開催し、土曜日、日曜日及び祝日の便数を1便減便し運航経費削減を行うと伴に、空き時間を旅客不定期航路の運航に充てることにより収益性を上げるようにした。	A	B	航路改善計画に基づき効果的に集客を見込める寄港地の調整、運航ダイヤの変更を行い経費節減を推進する。利用客の安全確保を行うため老朽化している浮棧橋を計画的に整備していく。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	長崎汽船(株)	長崎～伊王島～高島	他社からの傭船収入の増加	A	A	平成26年度に航路運営に係る調査事業を実施し、策定した「航路改善計画」をもとに、総トン数115トン程度を想定した代替船建造を平成29年3月竣工を目途に行い、就航後、船舶修繕費、燃料費等の削減や、タイヤの減便等を行い経営改善を目指す。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	鷹島汽船(有)	阿翁～御厨	平成25年10月1日より離島住民運賃割引導入(阿翁～船唐津・黒島～御厨・青島～御厨)の3区間のみで実施している。少子高齢化の進行及び雇用の場が無く、若年者の島外流失により、利用者は年々減少傾向で歯止めがかからない状況であるが、交流人口の拡大、観光客の誘致のために「まつら交流公社」と協力して、青島への体験型修学旅行生の受け入れに努めている。	A	A	弊社経営の殿ノ浦～今福航路の使用船舶をフェリーから旅客船への代替船を建造中であり、旅客船になつた場合には、寄港地である飛島に週1回程度本航路の「フェリーたかしま2」を運航して、屎尿運搬車・ゴミ収集車・プロパンガス運搬車・燃料運搬のタンクローリー車等の車両輸送が必要となります。松浦市地域公共交通活性化協議会「殿ノ浦～今福航路対策文化会」において、阿翁～御厨航路に飛島を寄港地として追加することとなり、「航路改善計画」を作成する事になった。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	鷹島汽船(有)	殿ノ浦～今福	<p>少子高齢化の進行及び雇用の場が無く、若年者の島外流出により、利用者は年々減少傾向で歯止めがかからない状況であるが、交流人口の拡大、観光客の誘致のために「まつら交流公社」及び「まつら観光物産協会」と協力して、鷹島への体験型修学旅行生の受入れに努めております。寄港地である飛島へ島外の釣り客利用者の増加を図っている。</p>	A	B	<p>平成26年度に「航路改善計画」を作成し以下の航路改善方策の検討を行い(1)省エネ型純客船建造による利便性向上と運航コストの削減(2)新船導入に伴う適正な運航体制の構築(人件費・保険料削減)(3)利用者ニーズに対応した利便性の高いダイヤ編成(4)季節・曜日に応じた効果的な便数・ダイヤの見直しによる経費削減(5)運賃適正化と島民割引等の導入による収入増加(6)官民一体となった交流人口の拡大と島外利用者の取組み強化(7)効率的な運転資金の調達方法の検討(8)長期的視点のたつた継続的な経営効率化と関係者間の連携強化を図る事になった</p>	<p>少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。また、計画に基づき代替船建造に着手したことは評価できる。平成28年度就航に向けて、さらに関係機関と連絡調整を密にするなど連携を図っていただきたい。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	吉崎市	大島～郷ノ浦	三島の魅力をケーブルテレビでPRし、観光客誘致、校外学習によるフェリーの利用等、収入の増加、確保を図った。経費については、これまで行ってきた燃料潤滑油費の毎月単価入札の実施、修繕費については、中間検査における指名競争入札の実施、船員による日頃からの船舶保守点検を徹底し経費節減に努めた。	A	A	近年の公共工事の減少や島民の少子高齢化等により、運航収益の減少が危惧されるが、引き続き収入の増加・確保に努める。 また、経費についても、燃料潤滑油費について毎月単価入札を実施、中間検査の指名競争入札実施、消耗品費、修繕費等の経費節減を図り、本航路の実情にあった経営改善を継続的に図っていく。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	黒島旅客船(有)	黒島～高島～相浦	本船は、積載能力に限界がある為、工事車両を運搬する臨時便を運航したこと、そして大型建設重機車両輸送サービスを確保するため、「第二フェリー度島」を備船し、積み残し対応や利便性の向上を実施した。	A	A	新船就航により、更なる利便性の向上を図る。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。 また、代替船建造が計画どおりに実施されたことは評価できる。今後は安定した運航に向け点検整備を徹底していただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	五島市(奈留)	浦～前島	無人島体験の誘致と、五島市地域公共交通活性化再生協議会における海上タクシーを使ったデマンド運航の検討を継続し、事業を実施した。	A	B	五島市地域公共交通活性化再生協議会において、平成28年10月を目標として、海上タクシーを使ったデマンド運航が検討されている。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	(有)木口汽船	久賀～福江～杵島	前回の事業評価結果を参考として更に改善できる点はないか検討した。 費用面では、上架する1ヶ月前から細かい箇所の塗装等は全て船員で行う事とした。 収入面では、観光客誘致についてパンフレット送付等これまで以上にPRIに努めた。	A	A	久賀島、杵島においては、島民も観光客誘致に関心を持ち気運は高まりつつある。特に久賀島においては、教会を訪れる観光客が増えつつある。島での交通アクセスも整いつつありこれからも増えていくものと考えている。今後共、各方面とも情報交換をしながら島の活性化に繋がるよう利便性の高い運航便の検討を重ねていく事とする。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	(有)黄島海運	黄島～福江	日頃から費用削減に努め、安定的な航路運営を図った。	A	A	離島住民及び利用者の要望を常に聞きながら、改善すべき点については改善を図っていく。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	五島市(富江)	富江～黒島	病院等の利用が多く見込まれる火曜日(1日2往復)以外については、事前予約によるデマンド運航とすることが承認された。	A	A	海上タクシー等による、デマンド運航を検討する。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	竹山運輸(有)	度島～平戸	2隻のフェリーをうまく使うことで予想以上の備船収入は上がった。	A	A	・地元ネットワークに積極的に参加し住みやすい度島づくりに努める。 ・費用については複数社の見積もりを徹底し経費削減に努める。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	小値賀町	笛吹～大島・野崎	町の観光窓口である「おちかアイランドツーリズム協会」や「小値賀観光まちづくり公社」と連絡を密にし、修学旅行生や観光客・民泊利用者など、町営船の利用をスムーズにする等の対策を行った。 ・利用客の増加や利便性の向上を図るため、お盆や連休など多くの利用客が見込まれる定休日の変更を行った。	A	A	離島航路構造改革補助事業で立ち上げた航路対策協議会分科会の中で、効率的な運航や増収策など、意見を聞きながら取り組んでいく。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
長崎県離島航路対策協議会	小値賀町	柳～納島	島の特産品である落花生収穫体験の研修等により団体客の利用が増加した。	A	A	今後も、観光事業と連携した取り組みを行い、利用客増加を図る。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。 また、計画に基づき代替船建造に着手したことは評価できる。 平成28年度就航に向けて、さらに関係機関と連絡調整を密にするなど連携を図っていただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎県離島航路対策協議会	嵯峨島旅客船(有)	嵯峨島～貝津	定期船の空いている時間に島一周の遊覧を出来るように海上運送法第20条不定期許可を取得した。	A	A	昨年よりも乗船者数を伸ばすことが出来たので今後も維持確保出来るよう努力していきたい。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
姫島～国見航路運 営協議会	姫島村	姫島～国見の離島航 路の運航	○「観光客の受入について は、島民が観光客をどう受け 入れることができるか」という 評価結果に基づき、島民に十 分な説明をして理解を得たう えで、観光情報を発信してい る。(協議会委員として姫島 村区長会会長、姫島村商工 会会長を任命している) ○安心・安全な運航サービ スについては、日頃から船舶等 の点検・整備を確実にを行うこ とで維持されている。	A	A	○ジオパークに認定されたこ とを契機に観光イベントの活 用を充実強化することによ り、県内外からの観光客誘致 を進め人口交流の増大を図 る。 ○27年4月から省エネ船を 導入し、その優先的な運航割 当を実施することで燃料消費 量の削減を図る。	少子高齢化の進行で運航収益 の増収は見込みにくいと考えら れることから、収支率に着目して 事業の実績が計画を上回るよう に取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
大島～佐伯航路運 営協議会	佐伯市	大島～佐伯の離島航 路の運航	○「観光客の受入について は、島民が観光客をどう受け 入れることができるか」という 評価結果に基づき、島民に十 分な説明をして理解を得たう えで、観光情報を発信してい る。(協議会委員として佐伯 市あまべ商工会理事、大島 地区自治会長を任命してい る。) ○安心・安全な運航サービス については、日頃から船舶等 の点検・整備を確実にを行う ことで維持されている。	A	A	○関係機関と連携して島外から の誘客を図るとともに、活性化方 策として観光資源の開発等を含 め検討する。 ○航路維持の存続を図るため、 民営化を含めた航路経営の見 直しを検討する。 ○更なる経費節減を図り、欠損 額の縮小に努める。	少子高齢化の進行で運航収益 の増収は見込みにくいと考えら れることから、収支率に着目して 事業の実績が計画を上回るよう に取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
蒲江～深島航路運 営協議会	蒲江交通(有)	蒲江～深島の離島航 路の運航	○「観光客の受入について は、島民が観光客をどう受け 入れることができるか」という 評価結果に基づき、島民に十 分な説明をして理解を得たう えで、観光情報を発信してい る。(協議会委員として、佐伯 市あまべ商工会理事、屋形 島区長、深島区長を任命して いる。) ○安心・安全な運航サービス については、日頃から船舶等 の点検・整備を確実にを行うこ とで維持されている。	A	A	○島民利用の増加は望めな いことから、観光関係部署と 連携を図りながら来訪客の拡 大を図る。 ○更なる経費節減に努め、欠 損額の抑制を図る。	少子高齢化の進行で運航収益 の増収は見込みにくいと考えら れることから、収支率に着目して 事業の実績が計画を上回るよう に取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
津久見～保戸島航 路運営協議会	(有)やま丸	津久見～保戸島の離 島航路の運営	○「観光客の受入について は、島民が観光客をどう受け 入れることができるか」という 評価結果に基づき、島民に十 分な説明をして理解を得たう えで、観光情報を発信してい る。(協議会委員として保戸 島区長会会長を任命してい る) ○安心・安全な運航サービス については、日頃から船舶等 の点検・整備を確実に行うこ とで維持されている。	A	A	○観光部署と連携してツア ー客等の利用拡大を図る。 ○引き続き、節減に努め経費 の圧縮を図る。 ○船舶2隻が老朽化してお り、航路の維持存続・活性化 を含め検討する。	少子高齢化の進行で運航収益 の増収は見込みにくいと考えら れることから、収支率に着目して 事業の実績が計画を上回るよう に取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
延岡市離島航路確保維持改善協議会	日豊汽船(株)	島浦～浦城	島野浦島での観光イベントの実行委員会に航路事業者が参加し、観光協会や地元団体と連携しながら事業に取り組むなど、交流人口の増加に向けた取組を図った。	A	A	島内人口が減少傾向にあり、高齢化も進んでいるため、島民の利用増加は見込めないが、観光関係団体などと連携しながら、島外客向けの駐車場確保や観光メニューの開発など、さらなる観光客の誘致に取り組み、島外からの利用客増加を図る。 航路の維持のためには、船員等の確保が必要不可欠であることから、島内の小中学校等と連携した船員確保に向けた取組みを検討する。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
串木野・川内～甌島 航路対策協議会	甌島商船(株) 串木野・川内～甌島 航路	串木野・川内～甌島 航路の運航	<p>・離島住民の生活航路としての 利便確保に努めるとともに、旅 行代理店向けの旅行商品割引 やJR九州と連携した連絡きつ ぶ、高速船周遊割引、また、高 速船の停泊時間を活用した川内 港～里港間の貸切チャーター便 の運航を実施し、甌島への入込 観光客の誘客促進を図ること で、輸送量の維持、確保に努め た。</p> <p>・また、平成27年4月からは離島 住民運賃割引の乗船手続きの 簡素化と発券及び集計作業の 効率化のために、ICカードを利 用した「島民パスポート」の発行 とその運用を開始することで、利 用者利便の向上に努めた</p>	A	A	<p>・甌島の人口が減少傾向にあ り、利用者も減少していることか ら、引き続き薩摩川内市と連携 し、島外からの交流人口の増加 を図ることで、輸送量の維持に 努める。</p> <p>・ま た、離島住民にとって必要不可 欠な交通手段である航路の維 持・確保のため、今後とも経費削 減に努め、安定的な航路運営に 努める。</p>	<p>少子高齢化の進行で運航収益 の増収は見込みにくいと考えら れることから、収支率に着目して 事業の実績が計画を上回るよう に取り組んでいただきたい。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
鹿児島～三島航路 対策協議会	三島村 鹿児島～三島航路	鹿児島～三島航路の 運航	地域間交流や各種イベント等、 村の施策と連携した需要喚起に 取り込むことで、利用者数が増 加となった。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、年間目標輸送量を確 実に達成できるよう、地域間交 流や各種イベント等、村の施策 と連携した需要喚起策に取り組 むこととしたい。 また、離島住民にとって必要不 可欠な交通手段である航路の維 持・確保のため、今後とも経費削 減に努め、安定的な航路運営を 行うこととしたい。 本航路は、平成27年9月まで 運営していた鹿児島～三島航路 を枕崎まで延伸し、平成27年1 0月から鹿児島～三島～枕崎航 路として、鹿児島～三島各島間 において週3航海、枕崎～三島 各島間において月1航海及び多 客時期の年間16航海の運航を 行っているものである。これによ り三島各島の島民に対して、本 土への渡航機会の増加など利 便性向上を図ることとしている。 	<p>少子高齢化の進行で運航収益 の増収は見込みにくいと考えら れることから、収支率に着目して 事業の実績が計画を上回るよう に取り組んでいただきたい。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
鹿児島～十島～名瀬航路対策協議会	十島村 鹿児島～十島～名瀬航路	鹿児島～十島～名瀬航路の運航	<p>・平成27年2月に策定した航路改善計画における輸送サービス改善のため方策として、臨時便を拡充(年12便→15便)を実施し、利用者利便の向上を図った。</p> <p>・平成27年4月から寄港順路の一部変更を含む運航ダイヤの見直しを行なったことで、航海時間の短縮及び経費節減を図った。</p>	A	A	<p>・十島村が実施している定住対策関連事業(交流人口の増加対策や地元産業の育成対策等)の施策を支援することにより、本航路における輸送量の確保及び航路収支の維持に努める。</p> <p>・平成27年2月に策定した航路改善計画に基づき、代替船舶の建造を行なうことにより、船体の老朽化に伴う経費の増加を抑制し、本航路の安定的な運航の維持・確保に努める。</p> <p>・離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営を行うこととしたい。</p>	<p>少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
鹿児島～喜界～知名航路対策協議会	奄美海運(株) 鹿児島～喜界～知名航路	鹿児島～喜界～知名航路の運航	<ul style="list-style-type: none"> 奄美群島航路運賃軽減事業の割引制度を活用した航路の利用促進を図るとともに、関係市町との連携した増収の取り組みに努めた。 燃料価格の変動に応じて運賃へ上乗せする燃料油価格変動調整金を適切に収受するとともに、その他経費も随時見直しや節減を行い、新船投入による利便性の向上を図りながら航路収支の改善に努めた。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 旅客については、離島の少子高齢化や人口減少の影響により、利用者も減少傾向での推移となっているが、奄美群島振興交付金を活用した運賃軽減事業や島外利用者への交流割引制度を実施することにより、利便性確保と利用促進に努める。 燃料価格の変動に対応した燃料価格変動調整金の見直しを随時行い、これを収受することで、航路収支の維持に努める。 離島の関係市町村と一体となり、公共事業や地域で生産される農水産物等の輸送や地域のイベントと連携した対応を行い増収に努める。 平成27年3月からの新造船「フェリーきかい」とあわせて運航ダイヤの改善を行なっているが、離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後も地域と連携した運航体制の見直しなど利便性の向上を図りながら、収益確保や経費削減に努め、安全を確保して安定的な航路運営を行うこととしたい。 	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
宮之浦～口永良部・ 島間航路対策協議会	屋久島町 宮之浦～口永良部・ 島間航路	宮之浦～口永良部～ 島間航路の運航	・年間輸送目標を達成するために 関係各所と連携を図りながら 収入の増加に努めるとともに、 費用についても、四半期ごと に行っていた燃料の入札を、平成 27年1月分からは毎月の実施と するなど経費削減に努めた。	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・12月25日に口永良部島の全島 避難指示が一部地域を除いて解 除され、12月29日より通常運航 を再開したところであるが、本航 路は島民にとって必要不可欠な 生活航路であるため、航路の維 持・確保に努める。 ・若者の島外転出や高齢化によ る島民人口の減少等で輸送量 の確保が難しい状況ではある が、引き続き安定的な航路運営 に努め、航路の維持・確保に努 める。 ・年間輸送目標を達成のために 関係各所との連携を図りなが ら、現在、増加傾向にある団体 旅行者等の誘致促進に努めな がら今後とも経費削減に取り組 み、安定した航路経営を行うこと としたい。 	少子高齢化の進行で運航収益 の増収は見込みにくいと考えら れることから、収支率に着目して 事業の実績が計画を上回るよう に取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
与路～古仁屋航路 対策協議会	瀬戸内町 与路～古仁屋航路	与路～古仁屋航路の 運航	・イベント開催や農業振興など地域住民の要望に応えるとともに、必要に応じて運航ダイヤの見直しを行うなど、利用者と航路運営の課題を共有しながら、輸送サービスの向上に努めた。	A	B	・年間目標輸送量を確実に達成できるよう、与路島、請島でのイベント開催や農業振興等による取扱い貨物の増など、町の施策と連携した需要喚起策に取り組むこととしたい。 ・また、離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営を行うこととしたい。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名: 確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
瀬相～古仁屋～生 間航路対策協議会	瀬戸内町 瀬相～古仁屋～生間 航路	瀬相～古仁屋～生間 航路の運航	—	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年10月からの新造フェリー就航に伴う新船投入効果や、平成29年に予定されている「奄美・琉球」の世界自然遺産登録による交流人口の増加が見込まれることから本航路の輸送量は、今後においても、旅客、車両ともに概ね増加傾向で推移するものと見込まれる。 加計呂麻島民の旅客運賃負担軽減のための離島住民割引制度の導入の検討・実施を目指す。 また、離島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営を行うこととしたい。 	<p>少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
天草～長島航路対策協議会	天長フェリー株式会社 天草～長島航路	天草～長島航路の運航	—	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・獅子島の人口が減少傾向にあることから、島民の利用は漸次減少しているものであるが、長島町や天草市など関係自治体との連携を図り、島外からの交流人口の利用促進を図ることで、輸送量の維持に努める。 ・とくに、長島町など行政が実施する各種イベントと連携し、目標の輸送量確保のため、航路利用の促進に努める。 ・平成26年2月に策定した「航路改善計画」に基づく運航形態の見直しや省エネ効率化船の導入による経費削減に向け検討を行なう。 ・獅子島住民にとって必要不可欠な交通手段である航路の維持・確保のため、今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営に 	<ul style="list-style-type: none"> ・獅子島住民の生活利用の実態について、通勤・通学などの航路利用(天長フェリー、獅子島汽船)の状況を把握し、到着港から陸上交通への接続の円滑化を図り、利便性を向上させることが望ましい。 ・また、旅客輸送量が目標値を下回った理由として、多客期である7、8月の台風襲来による観光客の減少をあげているが、それでは外的要因に左右されることとなるため、欠航をはずし実際に運航できた一便当たりの利用者数等を目安にする方が望ましい。 	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
山口県生活交通確保維持改善協議会	下関市 竹崎～六連島航路	島民の通勤・通学及び生活物資の輸送を主な利用として、竹崎～六連島間を1日4往復運航。	観光客の受け入れにあたっては、参加者を募り、六連島自治会婦人会等を中心とした六連島特産のお花を使用したフラワーアレンジメント教室及び交流昼食会を実施するなど、住民を巻き込んだ取組みを実施している。	A	A	島民の高齢化や釣り人の減少等により、利用者が、減少してきているが、Facebook等による島の情報発信やイベント等を利用し利用者増を図るとともに今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営を行なうこととしたい。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	
山口県生活交通確保維持改善協議会	下関市 蓋井島～吉見航路	島民の通院・通学及び生活物資の輸送を主な利用として、吉見～蓋井航路間を1日3往復運航。	観光客の受け入れにあたっては、参加者を募り、蓋井島での底引き網体験や島で取れた海産物のバーベキュー等の行事を行ない、また7年に一度の山ノ神神事もあり、住民を巻き込んだ取組みを実施している。	A	A	島民の高齢化や釣り人の減少等により、利用者が、減少してきているが、Facebook等による島の情報発信やイベント等を利用し利用者増を図るとともに今後とも経費削減に努め、安定的な航路運営を行なうこととしたい。 観光客が蓋井島で海産物を買ったり休憩できる施設を今後検討しているとのことなので、その事業に協力していきたい。	少子高齢化の進行で運航収益の増収は見込みにくいと考えられることから、収支率に着目して事業の実績が計画を上回るように取り組んでいただきたい。	